

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：平成29年7月18日(火)
(2017年)

地域企業紹介 その 50

株式会社第五電子工業

チャレンジ精神で未来へはばたく

半導体製造装置・真空装置の部品加工を主業とする株式会社第五電子工業の水田光臣社長を相模原市緑区橋本台2丁目の本社工場に訪ねました。

同社は水田社長の義父である五十嵐文男氏によって、1960年7月に「第五プレス工業」として創業され、半世紀以上の業歴を有するまさに老舗企業の一社である。

同社は半導体製造装置の部品製造を得意とし売上の約70%を占めている。半導体を製造する過程において、拡散炉にてウェハを高温で酸化させる工程がある。90%以上が溶接作業となる高熱ウェハを冷却する冷却部品や冷却ユニット(ラジエータ)を中心に製造している。取り扱う主な金属材料はステンレスであるが、ステンレスは塗装が不要のため、溶接の仕上がりの美観が重要な品質要素となる。同社は溶接に重点を置き、一般的なTIG溶接をはじめ、ファイバーレーザー溶接、プラズマ溶接、ロボット溶接、自動溶接など多彩な溶接ニーズに対応している。その他、水路付チャンバー、ジャケット構造品などの水密溶接品も手掛けるなど幅広い。

このように、第五電子工業の強みの一つは機密性に優れた溶接技術である。品質管理体制はISO9000に準拠するとともに製造から廃棄までのトレーサビリティも厳格に管理されている。その他、BCP(事業継続計画)にも積極的に取り組み、建屋の耐震補強工事の実施をはじめ顧客データや加工プログラムのバックアップ、代替生産委託のネットワーク構築などがあげられる。高い技術力に裏付けされた品質だけではなく、こうした取り組みが大手取引先からの高い信頼と社員のモチベーションアップに繋がっているのだと水田社長は言う。

水田社長は東京都稲城市の生まれで、就学前に相模原市淵野辺に移ってこられた。東京都立大学(現:首都大学東京)土木工学科を卒業後、住友金属工業に就職し建設技術部へ配属となった。その際、建築設計をはじめ建材を売るための企画・取り纏め業務から行政などへの営業など幅広い業務に携わってきた経験を持つ。

(2面につづく)

株式会社第五電子工業
代表取締役 水田 光臣 (みづた みつおみ)
所在地：相模原市緑区橋本台2丁目7番23号
従業員数：60名 (パートを含む)
売上高：9億円 (2017年4月期)
事業内容：半導体製造装置・真空装置の部品加工
URL: <http://www.netdaigo.com/>

その後、住友金属工業を退社し第五電子工業に入社したのは1997年のこと。日本の経済情勢が大変厳しい時代である。入社早々「営業部長」を任せられ、睡眠時間はほとんど無いくらい営業活動に東奔西走されたそうだ。そして水田社長が三代目代表取締役に就任されたのはリーマンショックの翌年2009年であり、近年まれにみる深刻な景気後退局面に入った時期である。いずれも厳しい時代に転換期を迎えた水田社長は、時代の変化と顧客ニーズを的確に捉えた上で、組織体制や設備投資、リスク管理などの改革に積極的に取り組んでこられた。「あまり過去にこだわらず未来に向かって進むポジティブ思考」がとても印象的な水田社長だ。

近年では各種溶接ロボットの増設を推し進められ、現在本社工場及び第二工場に4台の溶接ロボットが設置されている。その内の1台は相模原市産業用ロボット導入補助金を活用したTIG溶接ロボットの導入である。ロボット導入にあたっては段取り替えに伴う稼働停止などの諸問題があるが、若手をはじめとする社員が様々なアイデアを出し、創意工夫しながらロボット稼働率を100%にさせたことから生産性は大幅に向上したそうだ。現在同社の社員数は約60名、自ら発言し行動してくれる人材が多いと水田社長。特にここ数年は新卒採用が堅調に推移し、ベテラン技術者から若手へ、技術の伝承を進めて他社からも

羨まれるほどだとか。これもロボット導入効果やBCPなどにも積極的に取り組むほか“コミュニケーション”を大事にする職場風土が構築されているからこそではないだろうか。

今後について水田社長は、当面は半導体分野に注力しながら原子力レベル(*1)にも対応可能な溶接技術への更なる進化と成長のため、必要な設備や人材採用への先行投資を惜しまず行ってゆく。また、電気自動車・航空宇宙・AI分野やチタンなど材質面でも幅を広げ、年商二桁億を早期に達成したいとチャレンジ意欲旺盛に語る。

企業理念にもある通り、同社は100年継続企業を目指して、未来に向かって絶え間なく挑戦を続けている。そんな第五電子工業さんに心から「エール」を贈りたい。

(*1) 原子力発電の核融合炉の溶接技術レベルのこと。溶接業界の最高峰の技術



真空チャンバー

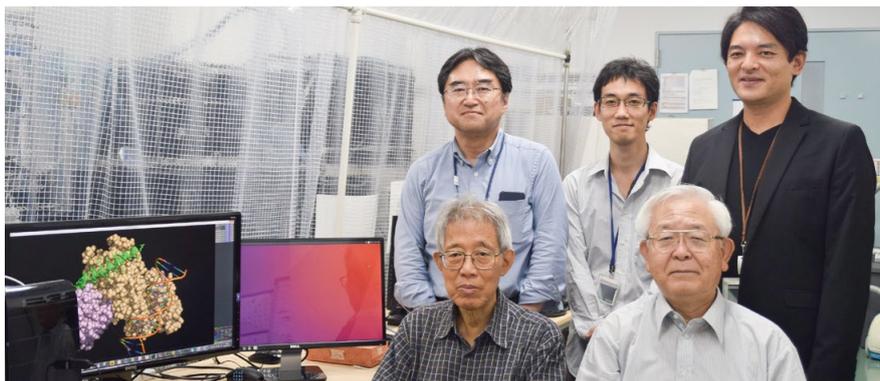
「一日でも早く、画期的な医薬品を届けたい」

インタープロテイン株式会社

「患者さまの視点に立ち、医療費負担が少なく、汎用性があり、革新性の高い医薬品の創出を目指す」ことを経営ビジョンに掲げ事業を展開しているインタープロテイン株式会社の事業開発本部長の小松弘嗣さんにお話を伺いました。

インタープロテイン社は2001年5月に設立された大阪大学発のバイオベンチャー。本社は大阪にあり、SICには2007年10月から相模原研究室として入居されています。研究室には常勤スタッフが5名、年齢的には30代前半から70代まで、幅広い人材が在任されています。SICに入居以降、横浜市立大学などの大学や研究機関、製薬会社とも連携をしながら、日々研究に取り組みられています。

昨今、高齢化の進展や医薬品の高額化に伴い、医療費の負担軽減は社会的にも大きな課題となっています。インタープロテイン社は、創薬標的としての期待が大きいたんぱく質間相互作用を阻害する化合物の探索研究を通して、安価で汎用性・革新性の高



い医薬品の創出を目指しています。

一般的に、新薬の開発にはおよそ15年がかかると言われていています。確率にして、化合物では3万個から4万個に1個、プロジェクトでは50件から60件に1件程度しか成功しないほどリスクの高い厳しい世界です。SICにある相模原研究室では、生産性向上に寄与することを目指し、INTENDD®と呼ばれる独自の分子設計技術を用いて、新たな創薬につながる化合物の探索研究を行っています。

創薬は一朝一夕に実現できるものではな

く、長期的なプロジェクトになることも少なくないと話される小松さんですが、仮にご自身が現役のうちに実現できなくても、研究を次の世代に繋げていくこと、一日でも早く画期的な医薬品を社会に届けることを目標に掲げています。それには、世代を超えたコミュニケーションが不可欠であることも小松さんは話されていました。

インタープロテイン株式会社

SIC-2205号室

TEL: 042-770-9477

URL: <http://www.interprotein.com/jp/index.html>

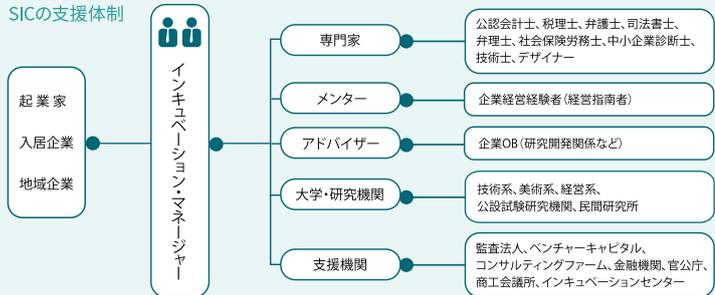


What is “Incubation”?

SICは、多くの地域企業様をはじめ産業振興に取り組む様々な機関・団体、行政や各関係者の方々に支えられながら、SICの企業理念にもある「総合的なインキュベーション活動」に取り組んでいます。

前号では、まだまだ一般的には馴染みがない「インキュベーション」について掘り下げてみました。今回は、「インキュベーションマネージャー」について掘り下げていきたいと思ひます。

SICの支援体制



ビジネス・インキュベーターとしてのSIC

新事業創出促進法は、地域産業の自律的發展を実現するために、日本に蓄積された技術や人材が、起業や新しい商品またはサービスの創出に寄与する事業環境を整備することを掲げた法律で、今でもSICの事業活動の根底になっている考え方です。そのためには、起業家を輩出し、起業家やその事業を成長させるためのお手伝いを行うこと、これがSICの考える「インキュベーション」です。



日本ビジネス・インキュベーション協会のBI認定証 (起業家育成ノウハウ保有の「証」)

ビジネスや経営という言葉では説明のつかない広く、深く、多様なことに挑戦する起業家に研究開発、資金調達、マーケティング、人的管理など様々な面でのサポートにより起業家の夢の実現を後押しすることがSICの社会的使命であることを肝に銘じながら日々の業務にあたっています。

また、最近ではインキュベーターが個々の事業者への支援だけでなく、地域産業の発展にも密接に関わることで、つまり産業創造の担い手としてその役割を果たすことを求められています。そのような中でSICは設立時から相模原市、国、神奈川県からの委託や地域ニーズに対応した様々な事業を通して、地域経済の発展に資する取り組みを行って来ました。

SICのインキュベーション・マネージャーとは

相模原市および周辺地域の産業振興、特に新しい商品やビジネスの創出を担う起業家や企業を実務面でサポートする専門スタッフがインキュベーション・マネージャー(以下、IMと略します)です。

大企業とは異なり、これから事業を始めようとする起業家や中小企業には限られた経営資源しかないことがほとんどです。そのような中でIMは起業家などの夢や挑戦を同じ目線で共有し、その実現に向かって共に考え、行動するパートナーとなることです。事業を起し、持続的なビジネスを確立するというはたやすいことではありません。様々な困難にもくじけず、前に進むためにいわば“伴走者”としてサポートし、ビジネスの実現に貢献することがSICのIMの使命と考えています。

また、SICでは様々なプロジェクト管理・運営も行い、IMが中心にその実務を担当します。最近ではロボット関連のプロジェクトなど、将来の地域産業振興のための取り組みにも参画しています。つまり、SICの企業理念にある「総合的なインキュベーション」の現場の前線に立っているのがIMなのです。



スープカレー専門店 ku u 矢部本店

JR横浜線矢部駅南口から徒歩3分のところにある、「ku u」を訪ねました。カレー好きだったご主人の横山さんが独学で磨き上げたスープカレーを味わえるお店です。おススメのこだわり農家の野菜カレーにタンドリーチキンや豚しゃぶをトッピングしていただきました。野菜は湘南の契約農家から仕入れたもので、当日は13種類もの野菜がゴロゴロと入っていて、スタッフ全員満足満腹でした。あっさり、ヘルシーなカレーなので、女性やご年配のお客様も多いとのこと。ご主人渾身のスープカレーは市内でもオンリーワンの味でした。ごちそうさまでした。

相模原市中央区矢部3-17-17 守市第2ビル1F 営業時間 11:30~14:45(L.O)
TEL: 042-757-6123 17:30~21:45(L.O) 定休日なし
<https://www.facebook.com/soupcurry.kuu/>



左から 豚しゃぶと野菜カレー、タンドリーチキンと野菜カレー (ライスは20種類の純国産雑穀米入り: ライス大盛りです)

ご主人の横山さん(店内にて)



子どもたちが 心を込めて作った商品を 販売します!

『さがみはら子どもアントレプレナー体験事業』は、小学生を対象に、初めて出会う仲間と「会社設立、事業計画書の作成、融資交渉、仕入・製造、販売、決算」という会社経営のプロセスを疑似体験するものです。



ご来場をお待ちしています!!

2017年

8月13日(日)

10:30~12:00 (予定) ※売り切れ次第終了

販売場所

相模大野駅北口 ペDESTリアンデッキ
(相模大野駅徒歩1分)



協賛社(者)の皆さんが子どもアントレを支えています。

本事業は、毎年、子どもたちの負担を軽減するため、趣意にご賛同くださった多くの皆様からご協賛をいただいています。大きな夢を持ち、無限の可能性にあふれた子どもたちの育成に、皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

協賛金：1口1万円(詳しくはSICホームページをご覧ください)

後援：相模原市、相模原市教育委員会、相模原商工会議所、

(公財)相模原市産業振興財団

※お問い合わせ先 さがみはら子どもアントレプレナー体験事業
実行委員会事務局 担当：上野(SIC-2)

詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<http://www.sic-sagamihara.jp>

明日から使える!! 人間関係なるほど心理学講座

職場、家庭、恋愛、さまざまな場面で役立つ、
人間関係を円滑にするコツを学びます。

日 程：平成29年9月4日(月)
時 間：19:00~20:30
会 場：ユニコムプラザさがみはら
相模原市南区相模大野3-3-2
bono相模大野 サウスモール3階
講 師：和光大学 現代人間学部
心理教育学科 教授 伊藤武彦さん



参加費：無料

募集人数：100名

主 催：(公財)相模原市勤労者福祉サービスセンター

共 催：(一財)町田市勤労者福祉サービスセンター
(公財)厚木市勤労者福祉サービスセンター

後 援：(一社)産業精神保健機構、相模原商工会議所

お申し込み・お問い合わせ先：(公財)相模原市勤労者福祉サービスセンター
(あじさいメイツ) ☎ 042-775-5505 MAIL: info@ajisaimetsu.or.jp

2017.7 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

8月11日(金)~13日(日) 子どもアントレプレナー体験キャンプ

9月 2日(土)~12月9日(土) SICカイゼン・スクール

入居企業を募集しています。

SIC空室情報 (平成29年7月18日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部 屋	空室数	賃料/月額	
		(共益費込・消費税抜き)	
SIC-1	○スモールオフィスA (23.6㎡)	1	78,700円
	○スモールオフィスB (17.3㎡)	4	64,200円
	○セミラボB (31.5㎡)	1	98,400円
SIC-2	空室はありません	-	-
SIC-3	空室はありません	-	-

編集後記

九州北部での記録的な豪雨により、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

SICスタッフの7割は県外が故郷です。九州出身の者もいます。今回の九州北部の災害に際しては、他人事では無く、皆それぞれに大切な人、場所、時間に思いを馳せたことと思います。それぞれの夏休み、良い夏休みをお過ごしください。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を
お待ちしております。

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>